研究区分	教員特別研究推進　教育推進

研　究 テーマ	国際関係学部の英語カリキュラムの流れと難易度レベルの検討				
研究組織	代　表　者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	須田　孝司
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発　表　者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	須田　孝司

講演題目

必修英語科目における成績評価の妥当性と学生の英語力

研究の目的、成果及び今後の展望

本研究では，同一名称・同一シラバスで運営されている 1 年次の 2 つの必修英語科目（フレッシュマンイングリッシュ（FE）IA と IIA）の成績評価の妥当性とその科目を履修している学生の英語力について検証を行った。

国際関係学部では，複数の教員が必修英語科目を担当しているが，ミーティングなどの際，多くの学生から不満の声が聞かれる。その不満の要因を探るため，本研究では 2023 年度前期に開講された 1 年次の必修英語科目 FEIA と FEIIA を履修した学生から，Ai により TOEIC のスコアを予測する Ai 診断テストのスコア（4 月受検）と TOEIC IP テストのスコア（8 月受検）を集め，その結果を FEIA と FEIIA の成績評価と比較した。

まず Ai 診断テストでは，Listening と Reading のスコアに差はなかったが，TOEIC IP テストでは Listening のスコアが Reading より有意に高くなっていることが明らかになった。また，FEIA と FEIIA の成績評価の分析から，教員によって成績評価方法や成績評価の重みづけが異なる可能性が示唆された。さらに一部のクラスでは 92%以上の学生に秀，または優の成績評価が与えられており，同一名称の科目内において成績評価に大きな差があることも明らかになった。

このような結果を踏まえ，本研究では以下の 2 点を提案した。

1. 英語読解力の向上　　2. 統一した成績評価方法の検討

まず 1 つ目に関しては，これまでも国際関係学部の学生は Reading のスコアが伸び悩んでおり，今後 TOEIC IP テストにおいて安定したスコアやスコアのさらなる上昇を求めるのであれば，英語の読解力を向上させることが必要である。そのため，後期開講の FEIIB では，Reading を中心とした授業を行うシラバスに変更した。

また，FEIA と FEIIA の成績評価の分析から，FEIA では教員によって成績評価に大きな差があることがわかった。この問題を改善するためには，クラス間の差を小さくするよう FEIA の成績評価方法や評価基準について今一度教員間で話し合う必要がある。さらに，各科目に責任教員を置き，その教員が中心となり授業期間に生じる問題に対応することが求められる。

必修英語科目の授業内容や成績評価方法を見直すことにより，学生の英語力を高めるだけでなく，学生の英語学習に対する取り組みや意識も改善できる。大学の授業時間だけで英語力を身につけることは難しい。学生が自主的に，また前向きに英語学習に取り組む環境づくりも国際関係学部の英語カリキュラムにとって重要であり，今後も必修英語の授業内容について継続して調査を行う。